

校長だより(令和3年6月)

群馬県立藤岡特別支援学校長 須川 史子

5月中旬よりすっきりしない空模様が続き、関東の梅雨入りも間近と思われましたが、ここ何日か前線が南下傾向となり、6月に入ってからの宣言となるようです。

全国で新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大が続いており、緊急事態宣言の延長やまん延防止等重点措置の対象地域も拡大する状況にあります。本県においては、5月4日(火)に全県の警戒度が「4」に引き上げられましたが、学校関係者の感染も急増しており、若年層にも感染力が強いとされる変異株による感染が拡大していることなどから5月16日(日)から6月13日(日)までの間、藤岡市を含む10市町がまん延防止等重点措置区域に指定されました。現在、通常登校が継続されていますが、感染リスクの高い教育活動の実施については、慎重に検討するよう県より指示が出されています。



本校では、これを受けて、諸行事を中止または延期、あるいは規模や時間等を縮小した形で実施せざるを得なくなっています。PTA総会については元々感染防止策として書面開催とし、授業参観等については3会場に分かれて画像配信を交えながら実施の予定でしたが、大事をとって中止とさせていただきます。また、市の施設等の貸し出しにも制限が加わったため、高等部の陸上記録会については延期とさせていただきます。こちらについては、秋の実施予定で再検討を始めているところです。今後についても警戒度が下がらない状況下では、計画通りの行事の実施が難しいケースも出てくるかと思えます。変更等を加えながら柔軟に対応してまいります。保護者の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動にご理解ご協力をお願いいたします。

さて、教育活動の中で大切なのは、安全で安心な学校づくりはもちろんですが、一人一人の児童生徒の特性を丁寧に見つめ、その将来の姿をイメージしながら指導にあたることだろうと思います。「今はこの児童生徒にはこの力を身に付けてもらいたいので、そのためにこの指導をしている」ということが、一日一日の指導の背景にかならずございます。お便り・連絡帳や送迎時の担任との話などから、現在どのような指導が行われているかはお伝えしているところですが、もし、指導についてよくわからない、個別の指導計画との関係がはっきりしないなど、ご不明な点がございましたら、遠慮なく担任までお問い合わせください。ご家庭との共通理解のうえで、指導にあたっていきたいと考えております。

◆すべての子どもが地域で学び、学んだ地域で暮らしていく

～そんなあたたかな社会をつくるさきがけとなりたい～

本校の子どもたちが地域で学び、将来、その学んだ地域で暮らしていくためには、教育の成果を地域の方々に知っていただくことが欠かせない活動です。

5月は初代校長の廣澤秀伸先生が校長室を訪ねてくださり、創立当初の貴重なお話を伺うことができました。また、本校をつくるきっかけとなる活動をなさったクレッシェンド(藤岡障害児者と共にくらす会)の代表の方々も来校されました。

さらには、6月に実習をお願いしている水耕栽培の「ソーシャルハウス藤岡」の施設長様が就業体験や現場実習を行う中学部・高等部の生徒のために、仕事内容を体験させてくださるとのことで指導に来てくださいました。

このように、多くの方々が、本校に関心を寄せてくださっていることをまことにありがたく思います。さらに私たち教職員が教育のプロとして、児童生徒の力を高めていくことが、将来の児童生徒の幸福につながっていくと思います。Smile & Small Step で進めてまいります。

皆さまのご支援ご協力に感謝申し上げます。